



「働き方」を変えてみよう!

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

私たちにとって、職業活動、家庭生活、地域活動などのバランスのとれた生活を送ることは、豊かで充実した生活を過ごすためにとても大切なことです。仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)は、個人の意欲や生活満足度を高め、より良い能力発揮を可能とします。市は、ワーク・ライフ・バランスの推進により、男女が育児や介護などの家庭生活と仕事や地域活動などを両立しながら共に社会のあらゆる活動に参画できる男女共同参画社会の形成に努めています。

平成21年度事業報告

◇男女共同参画推進講演会

6.13(土)

『命を支えるということ～“がんばらない”けど“なげださない”』

講師:鎌田 實さん(諏訪中央病院名誉院長)

会場:榛名文化会館エコール 入場者:500人

紛争地や原発事故などで十分な治療を受けることのできない子どもたちへの支援活動の経験や諏訪中央病院でのホスピスケアの取り組みなど、人間の強さを感じるエピソードを交え、感動的で心あたまるお話をしました。

参加者の声

- 元気をもらいました。あたかいで、これから「がんばらない、けど、なげださない」で生きてていきます。(60代女性)
- 人間のあたかさ、明日からの元気をたくさんいただきました。(40代男性)

◇男女共同参画セミナー

10.2(金)

『男女共同参画社会を創る』

講師:内藤和美さん(群馬パース大学教授)

会場:高崎市役所 第171会議室 参加者:43人

10.22(木)

『歴史の中の女性』

講師:若狭 徹さん(高崎市教育委員会文化財保護課主査)

会場:高崎市役所 第171会議室 参加者:49人

平成22年度事業予定

◇男女共同参画推進講演会

「日常の家族の風景から」

2010.6.26(土) 13:30~15:00

高崎市文化会館



重松 清さん

作家 フリーライター

1963年岡山県生まれ 出版社勤務を経て、フリーライターに。
1991年「ビフォア・ラン」で作家デビュー。
1999年「ナイフ」で坪田讓治文学賞、同年「エイジ」で山本周五郎賞。
2001年「ビタミンF」で直木賞を受賞。

詳細は広報高崎5/15号に掲載します

◇男女共同参画推進事業 映画上映

「アイ・ラヴ・ユー」

1999年 日本映画111分
第23回日本アカデミー賞協会特別賞受賞作品
日本P.T.A.全国協議会特別推薦

2010.8.19(木) 14:30~
高崎シティギャラリー・コアホール

原作 岡崎由紀子(「ひくまの出版」刊)
監督 大澤豊・米内山明宏
声に出して言う人もいます。手話で伝える人もいます。でも、いちばんは ギュッと抱きしめてアイ・ラヴ・ユー!
手話での演劇を目指す女性と、彼女を巡る人たちとの心の触れ合いを描くヒューマンドラマ。
詳細は広報高崎7/15号に掲載します。

編集／高崎市 市民部 人権男女共同参画課

〒370-8501 高崎市高松町35-1 TEL027-321-1228(直通) FAX027-326-3873

編集委員／坂本祐子・竹内由利子・橋美樹

発行／平成22年3月15日

Eメール／jinkendanjo@city.takasaki.gunma.jp



「バモス」とは、ポルトガル語やスペイン語で“一緒に行こう”又は“～しよう!”と説く言葉で日常会話で気軽に用いられる言葉です。

Vamos

高崎市男女共同参画広報紙
バモス 第12号

男女共同参画について

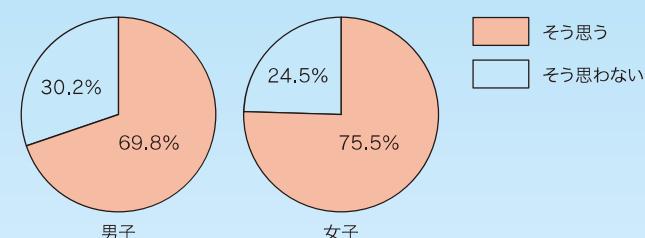
特集

高校生の意識は?

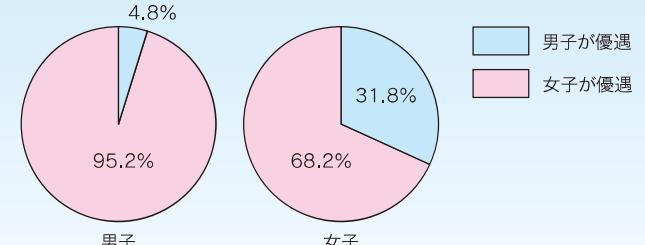
この調査は、平成21年9月から10月にかけて高崎市内の高校2年生200人を対象に実施したもので(有効回答者数185人)。将来への夢や希望を持ち、就職や進学といった大きな進路選択が目前にあって自分の将来をよく考えている世代の男女共同参画についての意識を探ってみました。

◇男女の地位の平等感について

あなたは学校の中で、男子と女子があらゆる面で平等に扱われていると思いますか



「そう思わない」方はどちらが優遇されていると思いますか



男女とも学校の中では平等に扱われていると感じている人が多いようです。しかし平等に扱われていないと感じている人に男女どちらかが優遇されているか聞いたところ、いずれも女子が優遇されているという回答が多くありました。

平等と思わない理由について

男子：体育のマラソンの授業で女子の方が距離が短い。

先生はどうしても女子に遠慮がちになるから。

何につけても男子が先陣を切らされる。

女子：場面によってそれぞれ優遇。

概念的な決めつけが残っているから。

力仕事など大変なことは男子に任せられる。

出席番号など男子が先のことのほうが多い。

男女共同参画社会とは… 男女の人権が等しく尊重され、対等な協力関係で築き上げるバランスのとれた社会です



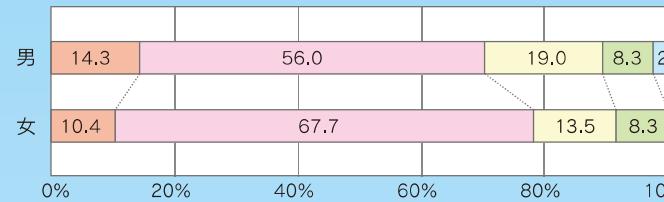
男女共同参画



男女共同参画について 高校生の意識は？

◇男女の地位の平等感について...つづき

あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか

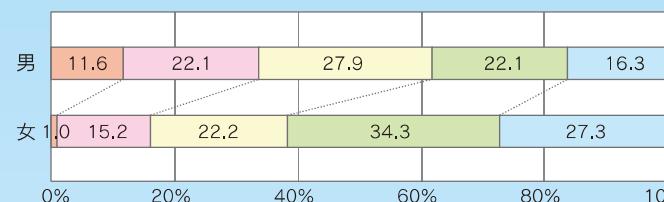


■ 男性の方が非常に優遇されている
■ どちらかといえば男性の方が優遇されている
■ 平等だと思う
■ どちらかといえば女性の方が優遇されている
■ 女性の方が非常に優遇されている

社会全体でみた場合に、男女の地位が平等になっているかについて、男女とも男性の方が優遇されていると思う比率が高くなりました。

◇男女の役割意識について

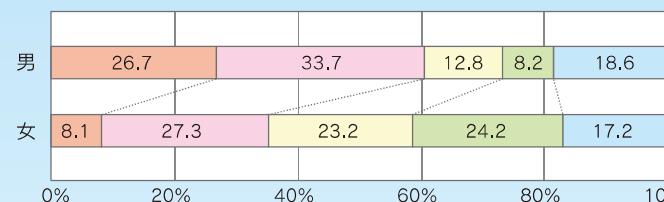
あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか



■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ わからない ■ どちらかといえば反対 ■ 反対

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、女子は「反対」、「どちらかといえば反対」の合計が61.6%であったのに対して、男子は合計で38.4%と、男女の考え方には大きな差がありました。

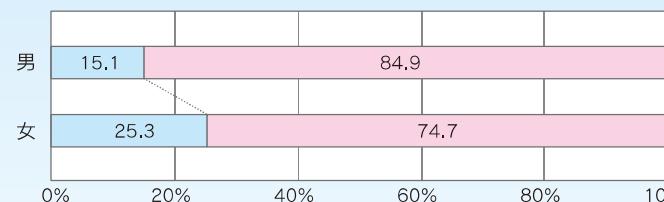
あなたは「男性は男性らしく、女性は女性らしく」育ったほうがいいと思いますか



■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う
■ わからない ■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない

「男性は男性らしく、女性は女性らしく」育った方がいいかどうかについて、女子は「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計が35.4%だったのに対して、男子は60.4%と、こちらも前の質問同様男女の考え方には大きな差がありました。

あなたは今までに「男のくせに」「女のくせに」などと言われていやな思いをしたことがありますか



男子：子どもの頃、試合に負けたとき父親に言われた。
小学校や中学校の部活動のときに先生に言われた。
姉に殴られて泣いた時、姉に言われた。

女子：中学生のとき話合いの場で意見を言ったら「男の俺が正しいんだ！」
女のくせに出しゃばるなと言われた。
いつも人に「女の子らしくしない」「女の子なんだから」と言われる。
両親から女のくせに「手伝いもできないの」「片付けもできないの」と言われる。



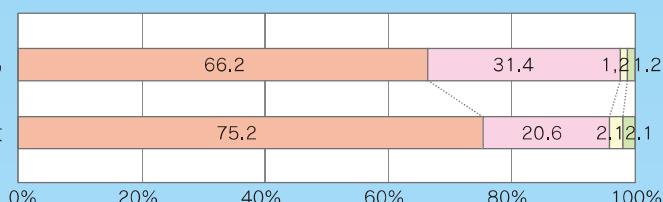
DV その暴力は犯罪です！

虐待やDVは社会全体に影響します。

DV(配偶者からの暴力)は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。DVの被害者は多くの場合女性であり、女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害する重大な問題です。男女が社会の対等なパートナーとして様々な分野で活躍するための前提として、女性に対する暴力は絶対にあってはならないことです。

配偶者からの暴力でお悩みの方、ひとりで抱え込まず、まずは相談所へご相談ください。

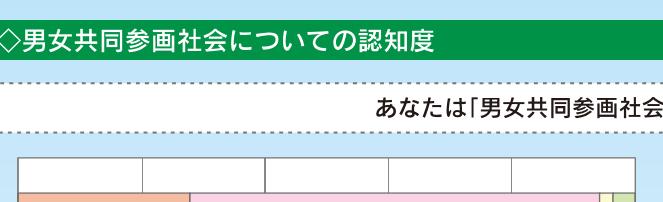
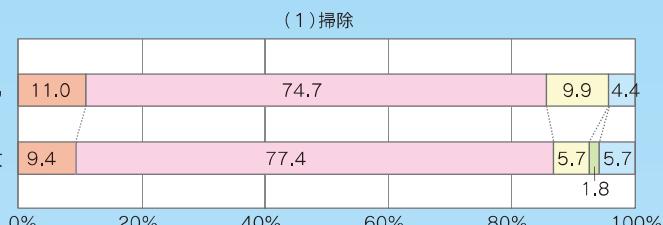
あなたは将来結婚して家庭を持つたとき、家事や育児をお互いが分担し合い、助け合っていこうと思いますか



■ そう思う ■ 少しそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

将来結婚して家庭を持つたとき、家事や育児をお互いが分担し合い、助け合っていこうと思うかについて、女子は「そう思う」「少しそう思う」の合計が95.8%、男子が97.6%と殆どの人が夫婦で助け合っていこうと考えていることがわかりました。

あなたの家庭では、これからあげるような家事を、主に誰が分担していますか

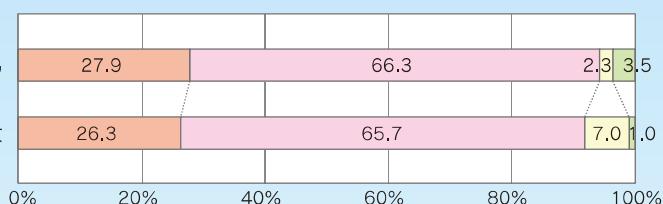


■ 父 ■ 母 ■ 子ども ■ 祖父 ■ 祖母 ■ その他

掃除、食事のしたく、食事の後かたづけ(食器洗い)の家事はいずれも母親が担っている家庭が多いようです。しかし父親や子どもも加わり家事を交代で行ったり、分担し合っている家庭も多く見受けられました。

◇男女共同参画社会についての認知度

あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか



■ よく知っている ■ なんとなく知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない

「男女共同参画社会」については、知っているという学生が殆どで、意外に認知度が高いことがわかりました。

アンケートの結果から、「男は仕事、女は家庭」という考え方や、「男性は男性らしく、女性は女性らしく」育った方がよいという考え方について、女子よりも男子が肯定する傾向が強いことがわかりました。しかし、将来結婚して家庭を持つたとき、家事や育児をお互いが分担し合い、助け合っていこうという思いが男女とも高かつたことから、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現に向けて大きな期待が持てます。また、家の分担状況も依然として母親が担う場合が多いものの、

父親や子どもも協力して家事を行っている家庭もあり、「男は仕事、女は家庭」という考え方には拘らなくなってきた親世代の意識の変化も伺えます。

これまで市が実施した市民アンケート調査では、18歳以上の方を対象にしており、社会に出る前の若者の男女共同参画に対する意識についての調査はありませんでした。今回の調査の結果を参考にして、市は今後も男女共同参画推進の取組を進めていきます。

DVに悩んでいるかたへ あなたを救える人がいます。話を聞いて、信じてくれます。まずは、連絡してみましょう

女性に対する暴力相談窓口

■相談機関

- 群馬県女性相談センター: **027-224-4480** (配偶者暴力相談支援センター)
- 高崎市保健福祉部こども家庭課: **027-321-1315** (高崎市役所1階20番窓口)

■DV相談ナビ: **0570-0-55210**

DV相談窓口の電話番号を音声ガイドで案内します。
郵便番号や地域区分から最寄の相談窓口を検索できます。

■女性の人権ホットライン: **0570-070-810**

DV、セクハラ、ストーカー行為といった女性をめぐる様々な人権問題についての相談を受け付ける専用電話相談窓口で、法務局職員又は人権擁護委員が相談をお受けします。
受付時間: 平日午前8時30分から午後5時まで

■警察相談専用電話: **…#9110**

犯罪被害の未然防止に関する相談に応じる窓口です。警察本部に設置された専用電話に自動的に接続します。

■職場におけるセクシュアル・ハラスメントについての相談

- 群馬労働局雇用均等室 **027-210-5009**

私たちにできること

助けるためにできことがあります。匿名の通報も…。

*誰かに暴力や虐待の跡がある時は、見て見ぬ振りをやめましょう。それは、暴力を放任することにもなるからです。

*批判せずに被害を受けている人の話を聴きましょう。すぐに助言を聞き入れるとは限りません。相手の状況を理解しましょう。

*全てに応えられなくてもよいのです。支援の手は外にいることを伝え、そのような支援団体と連絡を取るよう促すことができるからです。

(協力: ファミリークライシス研究所 原田いず美さん)